

文化・芸術

「新東都名所 東海道中『日本橋改』」

2012年、木版画、39・2枚×26・9枚

制作 アタチ版画研究所

YAMAGUCHI TAKESHI, GOTOHARA YUMI, MATSUDA YUKI, MATSUDA YUKI, MATSUDA YUKI

山口 晃 (1969年)

企画展では、特別出品として、現代の画家・山口晃の日本橋を描いた漫画原稿と木版画作品を紹介しています。

肉筆の漫画原稿は、「月刊モーニング・ツー」(講談社)で掲載の「趣都」から「日本橋ラプソディ」。木版画は山口晃の版下絵から彫師・摺師(すりし)による伝統の木版画技術で仕上げられています。

本作でビルの間から表れる日本橋の姿は、明治末・大正期からの石造りの橋の上に現代の首都高速道路、その上に擬宝珠(ぎぼし)のついた江戸期の木造の太鼓橋が架けられます。それぞれ、石造りの橋は人力車、クラシックカーや路面電車、首都高速道路はトラックや乗用車、太鼓橋は徒歩でゆく姿、と橋ごとに時代が描き分けられ、歴史が交差して積み重なります。

日本橋のもつ歴史とその姿が体現する重層性に改めて思いをはせます。

(大谷)

〈名画の扉〉

大川美術館企画展「東海道五十三次漫画絵巻」と歌川広重「狂歌入東海道」から

